

伝統産業でオリジナル卒業証書作成 総領中学校が紙すき体験

REPORT 4



総領中学校の3年生12人が、12月10日から一週間かけて和紙づくりを体験しました。

和紙づくりは、総合的な学習の一環として自分の卒業証書を和紙で作ることを通じ、地元の伝統産業について学ぶことを目的に毎年行われています。

生徒たちは、まず和紙の原料となる三桎や楮を調達。木屋地域の山林に分け入り、地元の方から三桎、楮の木を教してもらいながら、雪

の中寒さに負けずに刈り取りました。その後、刈取った原料を蒸して皮をはぎ取るなど、15の工程を体験。紙すき作業では、総領町紙すき研究会の方の指導のもと、初めての紙すきに戸惑いながらも一人一人自分だけのオリジナル和紙を完成させました。



▲紙すきを体験する生徒

地域貢献への思いを込めて小・中・高が連携 お年寄りに手づくりカレンダーをプレゼント

REPORT 5

西城紫水高校と西城中学校の生徒が12月10日、町内の一人暮らしのお年寄り家庭を訪問して「平成25年カレンダー西城町の達人・宝人・名所・旧跡」を手渡しました。

このカレンダーは、西城紫水高校が地域貢献を目的に企画したもので、西城地域で活躍している人や名所旧跡を、年間行事などの情報と共に掲載。商業科目文書デザインを選択している3年生が制作を手がけています。取材・撮影を同校生徒会が行い、町内の小学校児童がメッセージカードを作成、西城中学校生徒がラッピングを担当するなど、西城町内の小・中・高が連携して取り組みました。

カレンダーを手にしたお年寄りは「早速、1月の行事予

定を書き込みます」と笑顔で受け取り、生徒は「一人暮らしの方とふれあう機会ができてよかった」と話していました。



▲生徒に手づくりカレンダーを手渡され喜ぶお年寄り

本場の味を身近で楽しむ 口和で世界のお茶講座開催

REPORT 6

口和自治振興区が主催する外国のお茶について勉強する「世界のお茶講座」(全3回)が、口和老人福祉センターで開催されました。

12月20日開催の第1回目は、三次市在住で中華人民共和国四川省出身の周延(しゅうえん)さんから、世界で有名な「烏龍茶」について学びました。

参加者は歴史や由来、茶葉の選び方などを聞いた後、中国式の手順を教わりながら、茶器を使ってお茶を入れ、本場の味を楽しみました。

参加者の1人は「市販のペットボトルの烏龍茶とはまるで味が違う。日本とは違うお茶の入れ方や楽しみ方を体験し、もっと外国のお茶を試してみたい」と話していました。



▲烏龍茶の入れ方を学ぶ参加者

無病息災と商売繁盛を願って 越原で伝統の「ひざぬり」

REPORT 1

越原みこと会が12月16日、比和町のふれあいの里越原で「ひざぬり」を行い、約20人の地元住民が参加しました。

ひざぬりは、慌ただしい年末の無病息災・商売繁盛を願う師走の伝統行事です。

参加者は「師走川に落ちませんように」、「師走もうけができますように」と唱えながら、はしでつまんだぼたもちを自分のひざとひじの前で円を描くように回す独特の動作で、年末の健康と安全を祈願しました。

また、この日は古事記編纂1300年を記念して比婆山

神社に木口ウソクがともされ、参加した地域住民は「ひざぬりもして、きれいな灯も見ることができた。幸せがたくさん舞い込んでくれるといい」と話し、伝統行事を通して新年の幸福を願っていました。



▲ひじにもちを塗る仕草をする参加者

漫画舞台の高野を巡礼マップでPR 社庄原青年会議所が君町リーフレット作成

REPORT 2

社庄原青年会議所は、高野町が舞台の漫画「君のいる町」に登場する町内のスポットなどを掲載したリーフ

レットを作成しました。

このリーフレットはA3版の三つ折で、主人公が通う学校のモデルとなっている高野中学校や通学路、たびたび登場するたかの温泉神之瀬の湯やリンゴ園など町内の16カ所を漫画の一場面と並べて写真付きで掲載。町内のイベントや特産品も紹介し、表紙は同作品の作者で高野町出身の瀬尾公治さんが特別に描画。君町ファンの心をくすぐる一冊になっています。

同会議所の武田和二さんは「色々な方のご協力で発行することができた。これからも他団体の方と協力しながら、庄原市を元気にする活動を続けていきたい」と話していました。



▲リーフレットの完成を喜ぶ庄原青年会議所メンバー

県大会を凌ぐハイレベルな戦い 第14回高野町雪合戦大会

REPORT 3

第14回高野町雪合戦大会が1月20日、高野小学校グラウンドで開催されました。

広島県雪合戦大会の前哨戦となるこの大会は、選手たちで作る実行委員会が準備・運営を行い、町内の雪合戦競技レベルの向上に寄与してきました。

当日は絶好のコンディションの中、小学校の部6チーム、一般の部7チームが、それぞれ2つのブロックでリーグ戦を戦い、1セット3分の3セットマッチで勝敗を競いました。

1チーム7人の選手たちはシェルターに身を隠しながら、1セット90個の雪球を相手選手めがけて投げ合い、緊迫感のある激しい攻め合いに観客は目を奪われていまし

た。

実行委員長の栗原鉄男さんは「来年は15回の節目の大会。このところ参加チームが減っているので、ぜひ多くの参加で大会を盛り上げていきたい」と話していました。



▲激しく攻め合う選手

古事記編纂1300年 吹奏楽と紙芝居のコラボ 西城ブルーハーモニー 2012星降る夜のコンサート

REPORT 7

市民音楽グループ「西城ブルーハーモニー吹奏楽団」による年末恒例の「星降る夜のコンサート」が12月15日、ウイル西城で開催されました。

クラシックの名曲をはじめ、演歌や踊りも交えた最近のヒット曲のメドレーなど、さまざまなジャンルの曲が演奏され、来場者全員が東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を合唱。ステージの終りには、本の読み聞かせグループ「おはなし会ダンボ」の皆さんが、創作紙芝居「天の岩戸」を上演しました。

紙芝居は、日本最古の歴史書「古事記」が編纂されて1300年目にあたる年に、歴史的文化的資源である比婆山とこれにまつわる神話の物語を紙芝居にして伝え

ていこうと同グループが作成。

ブルーハーモニー吹奏楽団代表の伊藤郁夫さんは「紙芝居とのコラボレーションで、神話の世界に浸りながら演奏を楽しめた」と話していました。



▲創作紙芝居「天の岩戸」

今年の干支が区民を出迎え 峰田地区に「巳」オブジェ登場

REPORT 8

峰田自治振興センターの玄関先に、今年の干支「巳」をかたどったオブジェが飾られ、訪れる人を出迎えています。

このオブジェは、全長が約5m。山から切り出した蔓かづらをほぼそのまま利用し、本物の蛇と見間違ふほどリアルな色と形で、横向きにきれいなとぐろを巻いています。蔓は地区住民の永山眞佐範さんが地元の山から切り出し、矢倉義昭さんの協力を得て玄関先に設置。飾り付けは峰田自治振興区のメンバーで行いました。

事務局長の藤永春信さんは「山からの切り出しは大変な作業で、とてもありがたい。今年一年ご利益があり

そう。地元のまつりなどでもお披露目したい」と喜んでいました。



▲玄関に飾られた「巳」のオブジェ



▲設置作業の様子

帝釈峡まほろばの里で野鳥に給餌 帝釈地区伝統の冬の愛鳥活動

REPORT 9



▲ソバの種をえさ台にのせる子どもたち

帝釈地区の小・中学生とその保護者など30人が12月23日、東城町の帝釈峡まほろばの里の林で、野鳥のための「えさかけ」をしました。

これは、木の実が雪に埋もれる冬期のえさ不足を補って、ヒヨドリやシジュウカラなどの野鳥を保護しようと毎年行われている愛鳥活動です。

子どもたちは、地元で栽培したヒマワリやトウモロコシを槇の木の子にくりつけ、3基のえさ台にソバの種を給餌して、5㍍ほどの林に野鳥のえさ場を設けました。

えさを準備した帝釈自治振興区の大神真澄さんは「帝釈地区の子どもたちが昭和39年から続けている市内でも他に例がない行事。野鳥を観察し保護しようとする気持ちが郷土への愛着にもつながる」と話していました。

野鳥は、私たちの目を楽しませてくれるだけでなく、カミキリムシやガの幼虫などの森林害虫を駆除する役割も果たしてくれます。2月下旬頃まで、帝釈自治振興区と時悠館が共同で給餌を続けます。